

計画小委員会 活動報告

計画小委員会

小委員長 築瀬 範彦

1. 小委員会の目的

環境的、経済的、財政的な制約のもとで、また限られた空間の中で高密度な社会を営むべきわが国にとって、豊かで活力ある地域・都市を形成するためにも、地下空間の有効かつ計画的な活用は今後ますます重要な課題となる。計画小委員会は、こうした認識から、都市空間の再編や都市再生に結びつく地下空間利用の計画システムや事業システム、費用対便益・価値評価システム等の確立を目的として研究活動を行っているところである。

2. 研究内容

2.1 テーマ

- (1) 大規模災害を想定した大都市地下空間利用のあり方の研究
- (2) 地下空間を含めた計画システムのあり方の研究
- (3) 地下空間の多様な利用事例に基づく有用性評価方法の研究

2.2 研究スケジュール（3か年）

活動内容／年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
1)情報・資料の収集整理	←→		
2)事例の調査・研究		←→	
3)課題の抽出, 具体的分析研究		←→	→
4)成果とりまとめ			←→

3. 活動経過（平成24年4月～）

- ◇平成 24 年 5 月 11 日 平成 24 年度第 1 回小委員会
 - ・話題提供「地下空間の耐震、浸水等対策に係る国交省調査について」
 - 都市地下空間活用研究会 粕谷太郎様
- ◇平成 24 年 9 月 5 日 全国大会研究討論会
 - ・話題提供者の 1 人として工藤委員が登壇
 - 「地下空間における災害と防災・減災に向けて」
- ◇平成 24 年 10 月 22 日 平成 24 年度第 2 回小委員会
 - ・話題提供「地下区画整理について」
 - ランドマーク株式会社 山本芳明様
- ◇平成 25 年 5 月 27 日 平成 24 年度第 3 回小委員会
 - ・今期の研究成果とりまとめに向けて

今期研究活動のとりまとめに向けて【案】
(第6回計画小委員会 2013.05.27での議事に基づく整理)

1) 時代背景としての政策転換

- 地下空間活用のインセンティブに繋がる規制緩和など。
- 公民の地下空間を連結することにより有効活用を図ることへの積極的な機運。

2) 行政・デベロッパー・地権者の意識変化

- 先進的な事例を学ぶなどにより、地下空間をつなぐことの利便性が次第に浸透。

3) 地下空間の利用形態と取組み方の変化

- 単体で地下利用があった時代から、地下鉄へのアクセスをまず考えた時代を経て、有機的に利用しようとする時代に。
- 地下空間利用のための基本法を制定するという大きな枠組みづくりから、個別の案件に対応した柔軟な制度利用を行うことでの対応へ。



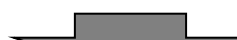
4) 今後の地下空間利用の方向性

- 立体的なエリアマネジメントの必要から地下を捉えることが重要。
- 稠密な都市部では、環境側面からの評価も必要。
- 新たな課題としての『安全』。地上・地下を一体的に捉えた地域防災計画など。
- 老朽化、更新への対応。



5) 委員会の役割

- この四半世紀の動きが、情報として共有化されているだろうか。
- 地下空間利用の考え方や進め方について大きな変化があったことを、この時点でまとめておくことの意義は大きい。
- 先駆的な地域での情報とかやり方を伝えていくことが、学会としての使命となる。



<地下空間シンポジウムにおける報告(発表)予定のアブストラクト>

地下空間研究委員会計画小委員会は、都市空間の再編や都市再生に結びつく地下空間利用の計画システムや事業システム、費用対便益・価値評価システム等の確立を目的として研究活動を行っているところである。本論文では、とくに先駆的な地域での計画手法や事業手法に関する情報を社会的にも共有化することを目的として、地下空間の有効活用に係わる今日的な視点と課題をとりまとめる。具体には、主にバブル期以降における大都市の地下空間利用事例等に基づき、地下空間活用のインセンティブに繋がる規制緩和や行政・デベロッパー・地権者の意識変化など、地下空間の有効活用を巡る変化を多様な視点から検証する。また、これらの変化を踏まえた今日的な視点による地下空間利用上の課題として、「立体的なマネジメント」「環境」「安全」「老朽化、更新」等を取り上げ、課題への対応方法を検討することにより、今後の地下空間利用の方向性について考察する。